



碧南ロータリークラブ週報

第2551回例会 平成23年6月15日(水)

● 会長 奥田 雪雄 ● 幹事 新美 宗和 ● 会場監督 (SAA) 伊藤 正幸

2010-2011年度 国際ロータリーのテーマ

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
 ■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
 E-mail: info@hekinan-rc.jp



地域を育み、大陸をつなぐ

■ 会報委員 新美雅浩・鈴木健三・西脇博正・菅原 優

● 齊 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● 本日のメニュー

季節のお弁当 とんがり帽子

● 本日のお客様

ものづくりセンター所長 長井健生氏 (前碧南水族館館長)



奥田雪雄会長

会 長 挨拶

木村耕一編著「思いやりのこころ」より

梅雨の合間、孫と二人で「だんご虫」と遊んでいますと、蟻が忙しそうに動き回っていました。梅雨晴れやとところどころに蟻の道 まさに正岡子規の俳句そのままの光景を見させていただきました。

それでは、本日は徒然草の第166段を紹介したいと思います。

人間がせっせとやっているのを見ると、まるで春の暖かい日に、雪だるまを作り、その雪だるまのために金銀珠玉の装飾品を集めたり、堂を建てようとしたりに似ている。

果たして、その堂ができあがってから、雪だるまを中へ安置することができるだろうか。いや、すぐに溶けてしまうから、できるはずがない。

人は誰でも「自分の寿命は、まだまだである」と思っているが、実際には、雪だるまが溶けていくように日々刻々と縮まっているのだ。

それなのに、あれもしたい、これもしたいと、非常に多くのことを計画し成功する日を望んでいるのは、雪だるまのために堂を建てようとしているとまったく同じではないか。その願いがかなう前に、自分の命がついてしまうのだ。

強烈な例えであります。人間の寿命が春の日の雪だるまくらいだとすると、そんな短い期間に、何をすべきかが、最優先課題となってきます。

長い一生だと思うと、つい時間を浪費してしまいます。

しかし、「短い」という大前提に立てば、よほど厳選しなければならなくなります。過ぎ行く人生で、一番にすべきことは何か。本当の「人生の目的」を考えることの重要性を説いたものです。

人間は「生」をうけた時からもうすでに「死」にむかって歩み始めていると私は思っておりません。

皆様は、何を思って「死」に向かって毎日を過ごしておられますか。

私は、何にも考えずに過ごしております。お迎えがくる日を待ちわびながらも、ただただ毎日が、その日が無事に過ごせれば、そして可能であれば、明日という日が迎えられるれば幸せだなと思っっているダメ人間です。

「人生の目的」って何でしょうか。今日は、春の日の雪だるまと人間の寿命は、どちらが長いでしょうかというお話を紹介させていただきました。

幹事報告

・理事会報告等は幹事報告の通りです



新美宗和幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数71名(内出席免除者16名の内出席者10名)出席者56名	
出席対象者 56/63名	出席率 88.89%
欠席者15名(病欠者2名)	前々回修正出席率 98.39%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 山中 寛三君 昨日、市民憲章推進協議会総会に出席して、良い話を聞かせて貰いました。
- 岡田 起勇君 6月12日、碧南高校同窓会総会で表彰されました。
- 植松 敏樹君 先日の碧南高校同窓会総会で、顕彰者表彰を受けました。ありがとうございました。
- 犬塚 敦統君 碧南市民病院にて、慰問コンサートをさせていただきます。
- 角谷 信二君 6月12日(日)平成23年度第59回碧南高校同窓会総会が無事終了しました。植松敏樹様、岡田起勇様にご臨席賜り誠にありがとうございました。
- 長田 和徳君 本日最後の卓話となり、プログラム委員会の仕事も無事終了する事が出来ました。皆様のご協力、本当にありがとうございました。
- 榊原 健君 先週は出席奨励委員会全員欠席で、次期委員長の西脇さんに行って戴きました。西脇さん、謝々、ありがとうございました。

卓話

「魚の名前を覚え36年」ものづくりセンター所長 長井 健生氏

ものづくりセンター所長に就任してからまだ2カ月なので、水族館にいた頃のことを話します。私は本当は水族館に関わるより海洋科学をやりたかったのです。

水族館に関わるようになったのは東海大学4年生の1月、学部長に呼ばれ、「大学に残らないか」と言われたからです。ブルガリア政府で海洋学を作る手伝いをしてくれと言われ続けましたが、昭和49年8



長井 健生氏

月に突然、資金不足のため、この話はなかったことにしてくれと言われました。そのため就職先もなくブラブラしていたら、高知県立の水族館を造る話があるから行ってくれと言われました。

私は魚を食べるのは好きでしたが、釣りの趣味もなく、魚の事も全く勉強していませんでした。3月24日に清水をたち、25日には高知の県庁に行きましたが、水族館はまだ工事中で、5月3日がグランドオープンだと言われました。ところが魚の手配も何もできてなくて、水産試験場の協

力を得てとりあえず300種類集めました。しかし、メインの展示室は全くの空でした。オープン日には知事も来ましたが大水槽の中は真っ白で空っぽでした。水族館には水中ポンプが12台ありましたが1週間で1台ずつ壊れました。高知市まで4時間かかってメンテナンスをしにきてもらいましたが、いつもいつも待っていては魚が死んでしまうのでだんだん自分でポンプ交換ができるまでになりました。大きな台風が来るたびに雨水が水族館に入ってしまう、高知時代は魚の名前を覚えるどころでなく、修理・修理の毎日でした。

ある時、愛知県から「碧南市に水族館を作る」という話がきて、「水族館は塩害との戦い」「職員の労働安全について」等を月に1回ほど聞かされました。そのおかげで碧南水族館は30年たってもサビが一つも出てないと思います。

碧南水族館に関わって一番楽しかった時期はオープンする1年前とオープン後1年位でした。何かを作るというのは本当に楽しかったです。碧南水族館は全国60数か所ある水族館の中でも下から10番目の小ささであります。今後碧南も含めて水族館が生き残るには①野生動物の保護②教育普及活動にあると思います。以前は見世物小屋的でよかったのですが、そのままでは現在の1割は淘汰されると思います。

今のものづくりセンターは週4日勤務なので週1日はアドバイザーとして東京に行っていますが、おかげ様で色々な面が見えてきました。碧南水族館は今年の7月で満30年になり、リニューアル計画をしています。建物は頑強なのでまだまだ大丈夫です。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

次回例会案内

平成23年6月29日（水）定款第6条第1節Cによる休会
平成23年7月6日（水）クラブフォーラム 役員の挨拶